



講談社
1,890円(税込)

〈お受験〉の歴史学

― 選択される私立小学校
― 選ばれる親と子

こばりまこと
小針誠 (現代社会学部准教授) 著

本書は、私立小学校の選択と選抜に関わる〈お受験〉問題を、明治期から現代に至る歴史を通じて明らかにしている。

本誌読者の多くは公立小に通学していたことだろう。他方、国立や私立の小学校の卒業生の方もいるだろう。その場合は入学試験を受験、合格しなければならぬ。特に私立の場合、入学金や授業料は高額で、必然的に児童の家庭環境も恵まれたものとなる。

親たちは私立小の教育理念や教育活動の魅力、そして本学園がそうであるように、幼稚園・

小学校から大学に至る一貫教育に惹かれ、私立小を選択している。他方、公立校の抱える問題や矢張り早くに進められる教育改革を回避して、私立小を選択するケースも珍しくない。

その結果、入学定員を上回る志願者を集め、過酷な入学選抜競争とそれに向けた準備教育が行われてきたのである。そして、この〈お受験〉の風景は大正期から今日まで連続と続いてきたのである。

ところが、昨今では厳しい選抜を科す私立小が少数派になりつつある。学校設置基準の緩和により、私立小の数は急増したものの、少子化と長引く不況により、定員割れや休校・廃校の危機にある学校も少なくない。本書で論じた私立小(お受験)の来し方を通じて、小学校を中心とする日本の公教育システムの特徴や私立学校に行く未を考えるうえで、是非ご覧頂ければ幸いである。

著者より

新 大 学 長 紹 介



同志社大学長(第33代)

松岡 敬(まつおか たかし)

1955年生まれ。

79年同志社大学工学部卒業、81年工学研究科博士前期課程修了、84年工学研究科博士後期課程単位取得退学。

84年近畿大学工学部助手、87年工学部専任講師、91年工学部助教授。

93年～98年同志社大学工学部助教授。

96年～97年サリー大学材料工学科客員研究員。

98年～現在同志社大学理工学部教授、01年～現在理工学研究科博士後期課程教授、05年～06年医工学研究センター長、06年～10年理工学部長、10年～13年副学長、15年～16年3月評議員(理工学部)、16年～現在理事、16年～現在高等研究教育機構長。

研究分野は、材料・材料力学、機械要素。

任期は2016年4月1日から4年間。